男子中学生の体育に対する興味についての一考察

柴　山　茂　夫

A Study on Interests to Physical Education Among Junior High School Boys

Shigeo SHIBAYAMA

This is a study on the actual conditions with respect to the differences of personal conditions and environmental factors between the pupils who like physical education and the ones who dislike it.

The subjects are 224 boys of junior high school which is attached to the Aichi Institute of Technology and their interests to physical education were measured by a paper-and-pencil questionnaire. The data were analyzed by T test for differences between means and by X^2 test for ratios.

The results are as follows;

a) Although no differences were found in physical forms such as heights and weights of their bodies, great differences were observed in fundamental motor abilities such as running, throwing and jumping, and motor aptitudes.

b) Number of agonies about bodies and motor abilities of the boys themselves, and the histories of cases were found to be significantly related to their likes and dislikes to physical education.

c) In addition, considerable differences were found in personality traits. Despite of their intelligence showed less important in regard to their interests to physical education, difference in V.Q. was found significant.

d) As environmental factors, interests to physical education of their parents were found unable to be ignored, but there were no significant differences in attitudes to sports and teachers of physical education among their parents.

1　研　究　目　標

興味という概念は，今日の一般心理学ではあまり用いられない(1)(2)．そのかわりに要求とか態度などの言葉がしばしば使われる．要求とは，いわゆる本能，衝動，欲望，欲求などといわれるものを包含する構成概念であり，要求が現実の諸対象に関連して，それらの諸対象に対して，好き，または，嫌いの判断を下す傾向性を生ずる時，これを興味といっている(3)．また態度とは，一定の対象に向けられ，快不快の情緒的反応をともなう状態であるとされるが，こうした態度のうち，快の情緒をともなうものに向けられると，特に興味と呼ばれるのである(4)．換言すれば，興味は正の誘発性(Valence)をもった対象に対する態度なのである．

興味の本質については，これまでいろいろ定義されてきたが，一般には興味は，ある対象に対する積極的選択的な（この場合の選択的というのは好悪あるいは受容拒否の機能をさす）心構え（これが関心といわれる）に情緒的緊張が供なった場合に使用される概念である(5)(6)(7)(8)．しかし，興味の概念は元来，多義的であり，構成心理学と機能主義心理学とでは意味するところが異なり，また学者の定義もまちまちである．したがって，理論的に整然とした体系を目ざす一般心理学では，興味という概念があまり用いられないものと思われる．

しかし，教育心理学や児童心理学では興味という概念がよく使用されている(9)．それは興味が質的に異なった心理現象の結合したもの，例えば Good, C.V. のいうよ

うに〝知的意識と感情的意識の結合したもの〟であり，教育の実際との関係が深いせいであろう[10]．事実，教育関係では，興味ということがかなり重要視されている．教育上，学習者の興味を重視すべきであるとの思想は，Rousseau, J.J. や Pestalozzi, J. H. によって叫ばれ，周知の通り Herbart, J. F. にいたって彼の教育学の中に体系づけられた．そして興味論は，さらに，Dewey, J. によって発展させられ，いわゆる新教育の重要概念として実践の上にも大きな影響を与えるようになった．敗戦直後は，それ以前の練成教育への反動や教育的価値基準の崩壊と動揺の上に，興味概念のあいまいさのため，興味の重視ということが，自由放任と同義に扱われたり，興味の発展ということが衝動のおもむくまゝと解されたりしたことがないではなかった．最近ではもはやこのようなことはないにしても，教育的に興味を正しく認識し，指導上に有効に位置づけることは，一般的に教育効果をあげるという見地からは勿論のこと，学業不振に陥っている学習者の指導からいっても大切な問題である．

近代の教育理論では，学習者の自発活動ということが，特に重んじられている．このことは裏をかえせば，学習者の興味を無視して，強制的な教育をしてはならないということである．学習者が興味をもたない対象に対しては，積極的な活動が起らず，自発的学習が起こらないからである．したがって，効果的な学習指導にあたっては，学習者の興味がいかなるものであるかを知って，その自発的・積極的活動を導くようにしなければならない．その場合，直観による主観的な理解ではなくて，出来るだけ科学的な，客観的な理解によらなければならない．

われわれは，体育指導に参考になる科学的資料を得ようとして，昭和35年入学の愛知工業大学附属中学校一年生全員を対象にして，彼等が大学を卒業するまで10年間にわたり，同一対象を縦断面的に追跡して，身体的・精神的な面の発達の実態をとらえようとしてきている．そして一部は既に日本体育学会に発表してきた[11][12]．

本研究は，体育に対する興味と，それに関係する要因について，実態調査の一部をもとにして纒めたものである．興味は，既に述べたように心理現象の一要素でなく，多くの要素の結合したものである．したがって，学習者の主体的条件，即ち身体的発育，運動能力，知的発達，性格などに影響されるとともに，環境的要因にも大きく左右されるものである[13]．本研究では主体的条件を中心にして考察し，環境的要因については，親の体育に対する興味との関係のみを問題にし，他は別の機会に検討することにした．また，興味に年令差，性差，学校差があることはいうまでもないが[14]，こゝではとりあげない．

2 研究方法

興味を調査する方法はいろいろあるが[15][16][17]，本研究では，末尾添付の質問紙により，体育の好き，嫌いとその理由を調査した．対象は前述の本大学附属中学一年生全員，男子224名であり，時期は昭和35年5月中旬である．それに，身体や性格などとの関係をみるために，同一対象に対して，同一時期に行なった，つぎのような標準検査*や質問紙の結果を利用した．1. クレペリン精神作業検査 2. 矢田部・ギルフォード性格検査** 3. 田中向性検査 4. 新田中A式知能検査 5. 新田中B式知能検査 6. スポーツに対する興味の調査 7. スポーツに対する態度の調査*** 8. 体育教師に対する態度の調査**** 9. ソシオメトリック・テストによる交友関係の調査 10. 自己の身体及び運動能についての悩みの調査*****

その他，5月から6月にかけて行なった身体計測や運動能の測定の結果を利用した．

これらいずれの検査，調査においても，学校の成績には関係はないが，研究の資料にするので真面目に正直に，自分が思ったまゝを素直に，相談しあわないで記入してくれるよう特に依頼して，生徒とのラポール(rapport)を保ちつゝ積極的に協力してくれるよう出来るだけの配慮をした******.

3 研究結果及び考察

本大学附属の中学一年生は，体育に対してどの程度の興味をもっているだろうか．そこでまず初めに，他の教科と比較しての相対的な位置を，品等法[19](method of rank order)と分類法(classification method)とにより調べてみた．

まず品等法型式では，中学校で教わる国語，社会，数学，英語，体育の6教科を並記しておいて，好きな順に1番から6番までの番号をつけさせた．そして得た順位の逆に高い得点を与え，その合計によって高い順に並べて整理すると第1表のような結果になる．

つぎに，同じ6教科のうちで，好きな学科に○を，嫌いな学科に×を，好きでも嫌いでもない学科に△をつけさせる分類法型式による調査の結果を，○を+1，それ

* 検査の実施方法や採点等に関しては，すべて各検査の実施手引書に準拠して行なった．

** 以後Y—G性格検査と略称．

*** 参考文献(18)中の競技に対する意見（サーストンの等現間隔法による意見尺度）により調査．

**** 参考文献(3)135頁〝教師に対する態度〟の意見尺度を体育教師に限定して調査．

***** 参考文献(3)81頁〝自己の状態〟についての悩みの調査を参照．

****** 調査に対する反感や嫌悪が調査結果を大きく歪めることは，名古屋大学教育学部紀要第4巻140—168頁〝教育心理学的診断の予見性に関する追跡研究〟で問題として提起されているからである．

表 1.　品等法による結果（N＝224）

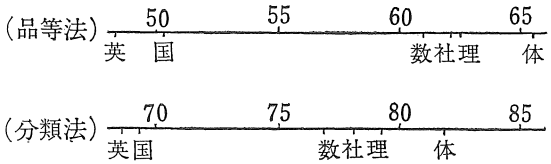
教科	好きな順位（実数）						得点	評定値	順位
	1位	2位	3位	4位	5位	6位			
体育	63名	42名	28名	31名	28名	32名	881	3.93	1
理科	36	50	48	26	39	25	839	3.75	2
社会	40	48	37	40	28	31	835	3.73	3
数学	45	35	39	39	36	30	820	3.66	4
国語	23	18	40	50	46	47	677	3.02	5
英語	15	30	34	41	46	58	649	2.90	6

表 2.　分類法による結果（N＝224）

教科	好き（+1）	どちらでもない（0）	嫌い（−1）	得点	評定値	順位	好きな者		嫌いな者	
							%	順位	%	順位
体育	136	54	34	102	0.46	1	60.71	1	15.18	4
理科	114	81	29	85	0.37	2	50.89	2	12.95	6
社会	107	87	30	77	0.34	3	47.77	3	13.39	5
数学	101	81	42	59	0.26	4	45.09	4	18.75	3
国語	67	108	49	18	0.08	5	29.91	6	21.87	2
英語	69	99	56	13	0.06	6	30.80	5	25.00	1

に対立する×を−1として挙げられた度数（人数）を点教になおして整理すると第2表のようになる．

表1と2をもとにして，好まれる順位だけでなく，各教科間の間隔をも示すように得点比で比較したのが図1である．



1図　得点比（最高可能得点に対する百分比）の比較

表1と2をみると，品等法の場合も，分類法の場合も体育が6教科の中で一番好まれている．6教科中体育が一番好きな者は63名（28.12%）で最高であり，体育が好きだと答えた者は136名（60.71%）で，2位*の理科114名（50.89%）をかなり上まわっている．

だから本大学附属中学の一年生は6教科の中で体育が一番好きだと考えて，まあ間違いはなさそうである．しかし，6教科の中で体育が一番嫌いだとした者が32名（14.29%）おり，体育が嫌いだと答えた者は34名（15.18%）で，理科29名（12.95%），社会科30名（13.39%）より多いことは注目に値する．

そこで，つぎに体育だけとりだして，好き嫌いの程度を5段階に分けて，その一つを選ばせるいわゆる評定尺度法によって，体育に対する興味の程度を調べた．その結果が表3である．

表 3.　評定尺度法による結果

項目	体育が大好き	好き	どちらでもない	嫌い	大嫌い	計
実数	68	79	43	28	6	224
%	30.36	35.27	19.20	12.50	2.68	100

それによると，体育が大好きと答えた者は68名で約3分の1，好きな者を合わせると65.63%になる．大嫌いな者は6名で嫌いな者を合わせて15.18%である．これは前述の分類法による嫌いな者の比率と一致する．好きな者は136名（60.71%）であったので，11名（約5%）増加している*．

以上の結果から本大学附属中学一年生は，約60%の者が体育を好む一方，約15%の者が体育を嫌っているようである．そして，嫌いな者は分類法でも評定尺度法でも差がないので，嫌いだということがかなりはっきりしているようだが，どちらでもないと答えた者は，評定尺度法では11名（約5%）好きの方へ動揺しているので，指

＊理科や数学の理科系教科が，他の同種（例えば参考文献20）と異なって，文科系の学科（社会，国語，英語）より上位になっているのは工業大学の附属中学のため理科系の科目に興味をもつ者が入学してきている結果からかも知れない．このことは理科の好まれる順位が，第2位であることや，理科の嫌いな者が最少であることなどから推察される．

＊ある学科だけとり出して問う場合と，相対的に各学科における位置を見る場合とではだいぶ反応が異なるとされる．続有恒，東京都内中学校の教師及び生徒に対する社会科の諸調査，国立教育研究所．

表 4.　体育が好きな理由 (N＝147)

調査番号	理由	大好き (68名)			好き (79名)			計 (147名)		
		実数	%	順位	実数	%	順位	実数	%	順位
10	からだが丈夫になるから	43	63.24	2	47	59.49	1	90	61.22	1
4	楽しいから	47	69.12	1	34	43.04	4	81	55.10	2
3	面白いから	33	48.53	3	37	46.84	3	70	47.62	3
7	なんとなく好きだから	22	32.35	4	38	48.10	2	60	40.82	4
8	大人になって必要だから 大人になって大切だから 社会にでてから役に立つから	21	30.88	5	21	26.58	5	42	28.57	5
12	友人と仲よくなるから	15	22.06	8	14	17.72	7	29	19.73	6
11	性質が朗らかになるから	14	20.59	9	14	17.72	7	28	19.05	7
9	自分の性質にあっているから	21	30.88	5	5	6.33	10	26	17.69	8
5	ためになるから	9	13.24	10	14	17.72	7	23	15.65	9
2	よく出来るから，上手だから	16	23.53	7	3	3.80	11	19	12.93	10
6	教える先生が好きだから	8	11.76	11	10	12.66	9	18	12.24	11
1	先生にほめられるから	1	1.47	12	1	1.27	12	2	1.36	12
	その他	1	1.47		0	0.00		1	0.68	

導いかんによっては，体育の興味を好転させることがわりに容易のようである．嫌いな者でもその原因を調べて，適当な教育的配慮をする必要がある．

それ故つぎに，体育の好き，嫌いの理由を調べてみた．好きな者は好きなわけを，嫌いな者は嫌いなわけを，あらかじめ予定した理由（項目は表4・5にある）の中から選ばせた．他に理由があればそれを書かせた*．

まず，体育が好きだと答えた者の好きな理由を纒めると表4のようになる．それによると，体育の好きな理由で一番多いのは，〝体が丈夫になるから〟で，約6割の者が選んでいる．身体的理由が，かなり大きな比重を占めていることが解る．ついで多いのは〝楽しいから〟，〝面白いから〟，〝なんとなく好き〟等興味の本質ともいうべき感情的な理由で，それぞれ55.10%，47.62%，40.82%あり，2・3・4位を占めている．体育が愉快で楽しく，それに強く心をひかれている者が半数近くいると想像される．〝大人になって必要だから〟等社会的必要性から体育を好む者が約29%で第5位である．第6位は〝友人と仲がよくなるから〟，第7位は〝性格が朗らかになるから〟で共に20%弱で，社交性・明朗性を助長するために体育を好むと答えている．また〝自分の性質にあっているから〟という理由が第8位で約18%選ばれているところからしても，体育に対する興味と性格には，何んらかの関連性がありそうである．〝ためになるから〟が第9位で約16%の者が選んでいる．自分の利益になることが興味を生み，またそれを促進することは当然である．〝よく出来るから，上手だから〟等自己の運動能の優秀性から体育が好きだとする者は，約13%で第10位である．能力のあるところ，興味が生じ，興味のあるところ，しばしば能力を推進する．いわゆる〝好きこそ物の上手なれ〟である**．

また〝教える先生が好きだから〟という理由を18名が選んでいるし，〝先生にほめられるから〟体育が好きだと答えた者が2名いる．一般に社会的評価，とくに賞讃と批判は，興味を促進しまたは抑制する効果があるといわれているので，教える先生とその生徒の興味との間の関係も無視できない．

つぎに，大好きと答えた者と好きと答えた者との好きな理由を比較すると，統計的にも有意な差がみられたのは，2・4・9の3項目である***．

だから，大好きとする者の方が，好きな者より楽しくやっており，自分の性質にあった者が多く，上手な者が多いようである．好きな者は，大好きな者より，なんとなく好きな者が多く，ためになるからと答えた者もわずかながら多い．また，教える先生が好きだからと答えた者が，大好きな者より多いことは，性質にあわない，下手な者でも，指導いかんによっては，体育に興味をもたせ，自発的学習を期待することが不可能でないことを想像させる．

つぎに嫌いな理由を纒めると表5のようになる．

* 本大学附属中学一年生の自由記述法による質問紙の予備調査の結果と，参考文献(20)を参考にして作成．

** しかしながら，後述するように，好きということ必ずしも，能力を一様に約束するゆえんではない．「下手の横好き」というのがある．したがって，興味と能力は多くの場合，相互依存し，相互補強しあうが，必ずしもそういかなくて跛行する場合がある．

*** 項目2，$X^2=10.96$ 項目4，$X^2=10.04$ 項目9，$X^2=13.50$ で共に危険率1%以下で有意な差あり．項目7は $X^2=3.07$ で有意差なし．(Fisher の直接確率方式による)

表 5.　体育が嫌いな理由（N＝34）

調査番号	理由	大嫌い（6名）			嫌い（28名）			計（34名）		
		実数	%	順位	実数	%	順位	実数	%	順位
2	下手だから，よく出来ないから	3	50.00	3	15	53.57	1	18	50.91	1
7	なんとなく嫌い	4	66.67	1	13	46.43	2	17	50.00	2
9	自分の性質にあわないから	4	66.67	1	10	35.71	3	14	41.18	3
10	からだが弱いから，つかれるから	3	50.00	3	7	25.00	5	10	29.41	4
3	面白くないから	1	16.67	3	8	28.57	4	9	24.47	5
4	楽しくないから	1	16.67	5	2	7.14	6	3	8.82	6
1	先生に叱られるから	0	0.00	5	1	3.54	7	1	2.94	7
8	大人になって必要でないから 大人になっても役に立たないから	0	0.00	7	0	0.00	8	0	0.00	8
5	ためにならないから	0	0.00	7	0	0.00	8	0	0.00	8
6	教える先生が嫌いだから	0	0.00	7	0	0.00	8	0	0.00	8

それによると，嫌いな理由で一番多いのは，〝下手だから〟という理由で約5割の者が選んでいる．上手だという理由で体育が好きだとする者は約13%(第10位)で，それほど多くないが，下手だということは体育を嫌いにさせる大きな原因のようである．〝なんとなく嫌い〟だとする者も5割いる．また〝自分の性質にあわないから〟とする者が約4割もいるところをみると，性格面との関係も無視出来ないことがわかる．〝からだが弱い，つかれる〟という身体的理由（約3割）も見逃すことが出来ない．〝面白くない〟〝楽しくない〟とする者が，24.47%，8.82%いることは問題で，〝先生に叱られるから嫌い〟だとする者がいるところからしても，教師の指導法の改善，工夫によって，体育に対する興味を増進することが，是非とも必要である．つぎに，大嫌いな者と嫌いな者とを比較すると，前者は後者より，身体が弱く，疲れやすい者が多く，性質にあわず，なんとなく嫌いで，楽しくないと答えた者が多いが，大嫌いな者の数が少ないので何んともいえない．

以上のような，体育の好き・嫌いの理由についての調査結果から，生徒たちの体育に対する興味は，体が丈夫であるかどうかの身体的条件，上手・下手の運動能，社交性・明朗性などの性格面，及び教える先生等によってかなりの影響をうけていることがわかる．

そこで，更に他の資料をもとにして，体育に対する興味と身体面や性格面などとの関係を考察していきたい．まず初めに，自己の身体や運動能についての悩みとの関係を調べてみた．これは末尾添付の質問紙によって，ふだん気に病んでいる項目があれば，それに○をつけさせる形式で調べたものである．その結果が表6で，体育の好きな者と大好きな者，嫌いな者と大嫌いな者とを纏めて図示したのが図2である．今一人あたりの平均の悩みの数を算出すると3.42となる．体育の好きな者は2.82，嫌いな者は4.44で両群に有意差*がみられる．

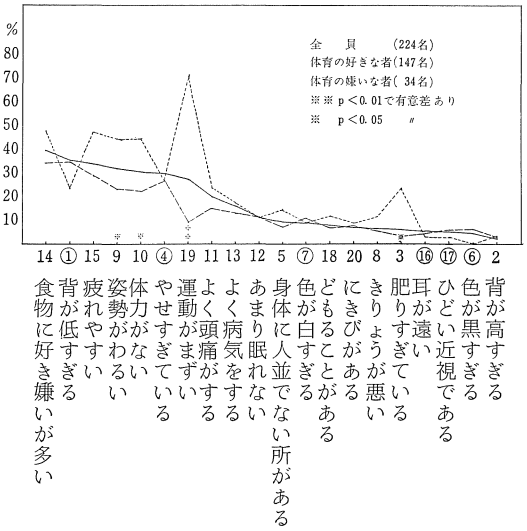


図2　自己の身体及び運動能についての悩み

なお，体育の好きな者には，悩みがないと答えた者が19名（約13%）いたのに対し，体育の嫌いな者には一人もいなかった．また，悩みの数が10の者が，体育が嫌いな者には2名（約6%）いたのに，好きな者には，そのように多くの項目に○をつけた者はいなかった．以上の結果から，体育の嫌いな者は，好きな者より，自己の身体や運動能についての悩みの数が多いと考えてよさそうである．

悩みの内容に差があるであろうか．そこでつぎに各項目について，体育の好きな者と嫌いな者とを比較してみた．図2において○印のついている6つの項目を除いて，いずれの項目も悩む人の%は，体育の嫌いな者に多

* 体育の好きな者　N＝147　$\overline{X}$＝2.82　S.D＝2.10
　体育の嫌いな者　N＝ 34　$\overline{X}$＝4.44　S.D＝2.41　t＝3.90　p<0.01

表 6. 自己の身体・運動能についての悩み

調査番号	項目	大好き(68名)		好き(79名)		どちらでもない(43名)		嫌い(28名)		大嫌い(6名)		計(224名)		
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	順位
14	食物に好き嫌いが多い	23	33.82	27	34.18	22	51.16	14	50.00	2	33.33	88	39.28	1
1	背が低すぎる	27	39.71	24	30.38	20	46.51	7	25.00	1	16.67	79	35.27	2
15	疲れやすい	20	29.41	22	27.85	17	39.53	12	42.86	4	66.67	75	33.48	3
9	姿勢がわるい	12	17.65	22	27.85	22	51.16	11	39.29	4	66.67	71	31.70	4
10	体力がない	18	26.47	15	18.99	20	46.51	11	39.29	4	66.67	68	30.36	5
4	やせすぎている	15	22.06	24	30.38	19	44.19	8	28.57	1	16.67	67	29.91	6
19	運動がまずい	2	2.94	12	15.19	23	53.49	21	75.00	3	50.00	61	27.23	7
11	よく頭痛がする	14	20.59	8	10.13	15	34.88	6	21.43	2	33.33	45	20.09	8
13	よく病気をする	12	17.65	7	8.86	11	25.58	6	21.43	0	0.00	36	16.07	9
12	あまり眠れない	9	13.24	8	10.13	4	9.30	3	10.71	1	16.67	25	11.16	10
5	身体に人並でないところがある	5	7.35	6	7.59	6	13.95	3	10.71	2	33.33	22	9.82	11
7	色が白すぎる	7	10.29	9	11.39	1	2.33	3	10.71	0	0.00	20	8.92	12
18	どもることがある	5	7.35	6	7.59	3	6.98	2	7.14	2	33.33	18	8.04	13
20	にきびがある	5	7.35	6	7.59	2	4.65	2	7.14	1	16.67	16	7.14	14
8	きりょうが悪い	3	4.41	5	6.33	3	6.98	3	10.71	1	16.67	15	6.70	15
3	肥りすぎる	5	7.35	0	0.00	1	2.33	6	21.43	2	33.33	14	6.25	16
16	耳が遠い	5	7.35	2	2.53	4	9.30	1	3.57	0	0.00	12	5.36	17
17	ひどい近視である	4	5.88	4	5.06	3	6.98	1	3.57	0	0.00	12	5.36	17
6	色が黒すぎる	6	8.82	3	3.80	2	4.65	0	0.00	0	0.00	11	4.91	19
2	背が高すぎる	2	2.94	2	2.53	1	2.33	1	3.57	0	0.00	6	2.68	20
	その他	1	1.47	3	3.80	1	2.23	0	0.00	0	0.00	5	2.23	21
	悩みの数総計	200		215		200		121		30		766		
	各人の悩みの数平均	2.94		2.72		4.65		4.31		5.00		3.42		

く，*印のついている4つの項目では有意差がみられた．その差が最大なのは，項目19〝運動がまずい〟で，体育の嫌いな者の約7割が気に病んでいるのに対して，好きな者でこの種の悩みをもつ者は1割に満たない．しかしこの1割弱の14名の者は，運動がまずいという悩みをもっていても体育が好きなのである．反対に体育が嫌いだという者で，この悩みをもっていない者が約3割(10名)いる．これは両群の要求水準* (Level of Aspiration) に差があるせいかも知れないし，運動能以外の要因が関係しているせいかも知れない．実際の運動能力の優劣についての，両群の比較は後で検討したい．

前に運動が下手だから体育が嫌いだと答えた者が約5割いたことを述べた．すると約2割の者は，運動がまずいという悩みをもっていても，運動が下手だから体育が嫌いだと答えていない．このように，体育の好きな者でも，運動がまずいという悩みをもっている者がいるし，嫌いな者でも，その悩みをもたぬ者がいる．更に悩みをもっていても，全員がそれで体育が嫌いになるわけではない．とはいえ，運動がまずいということが，体育が嫌いな第一の原因であったことを考え併せると，この悩みは体育の好き，嫌いに非常に関係の深い項目であると考えられる．その他〝体力がない〟，〝疲れやすい〟という項目も大きな差がある．このことは〝からだが弱いから〟，〝疲れるから〟体育が嫌いだとする者が約3割おり，嫌いな理由の第4位であったことを考え併せると，体育の好き，嫌いにかなりの関係がありそうである．

なお，項目3の肥りすぎているという悩みは，体育の嫌いな者に多く，項目1の背が低すぎるという悩みは反対に体育の好きな者に多い．そこで実際の身長と比体重との関係を調べたのが表7である．それによると，体育の嫌いな者で比体重の大きな者は，たいてい〝肥りすぎている〟という悩みをもっているようだが，体育の好きな者では，かなり比体重の大きな者でも，その悩みをもっていない．反対に背の低いことに対しては，体育の嫌いな者以上に気に悩んでいるようである．

* 体育の好きな者は，それほど下手でなくても，もっとうまくなりたいと思って気に悩んでいる者がいるかも知れないし，嫌いな者の中には，たとえ下手でも，そのことをそれ程強く気にしない者がいるかも知れない．

表 7.　身長・比体重一覧表（悩みとの関係）

○　背が低すぎる，やせすぎるという悩みをもっている者
（　）背が高すぎる，肥りすぎているという悩みをもっている者

身長	115	120	125	130	135	140	145	150	155	160	計(名)	$\bar{x}$	S・D
体育の好きな者	0	0	0	9	3	24	29	13	13	1	146*	143.84	8.33
			④	⑬	⑱	⑫	③	① (1)		(3)			
体育の嫌いな者	0	0	0	1	6	7	7	4	0	0	34	141.91	7.65
	①		②		②	① (1)	②						
全員	1	0	7	30	41	57	46	23	13	5	223	143.03	7.86

比体重	15—19	20—24	25—29	30—34	35—39	計(名)	$\bar{x}$	S・D
体育の好きな者	3	59	32	7	1	146	24.46	3.19
	①	㉞	④ (2)	(3)				
体育の嫌いな者	0	11	6	0	0	34	24.06	3.82
	⑤	④	(5)	(3)				
全員	10	142	57	13	1	223	24.35	3.19

＊計測日に1名欠席

表 8.　過去に大きな病気をやったことのある者（%）

（　）内は人数

項目	体育が好きな者	どちらでもない者	体育が嫌いな者	計
病歴のある者	13.33 (22)	26.83 (11)	38.89 (7)	17.87 (40)
病歴のない者	86.67 (143)	73.17 (30)	61.11 (11)	82.13 (184)
計	100.00 (165)	100.00 (41)	100.00 (18)	100.00 (224)

体育の好きな者と嫌いな者との間に有意差あり（$x^2=7.94$　$p<0.01$）

〝よく病気をする〟という悩みは体育の嫌いな者の方に多かった．そこで過去にやった大きな病気の有無*を，体育の好きな者と嫌いな者とで比較すると表8のようになる．それによると，病歴のある者の比率は，体育の嫌いな者の方に高い[21]．

実際の身体面における形態や機能に，体育の好きな者と嫌いな者とで相違があるであろうか．そのため形態面では，身長，体重，胸囲，座高をとりあげ，機能面では，50m走（速度と呼吸の耐力を調べるもの），ボール投，垂直跳（大筋肉の爆発的な動力を検査するもの），片足立（平衡性の検査），息こらえ（持久性の検査），上体反らし，体前屈（ともに柔軟性の検査），サイド・ステップ（敏捷性の検査），腕屈伸（腕の伸筋と肩胛帯の力と耐久力との検査），上体起し（腹筋の力と耐久力との検査）をとりあげ，Tスコアに換算して，両者を比較したのが表9と図3である．それによると身長，体重などの形態面の差はそれほどでないが，走，投，跳の基本的運動能力の面ではかなりの差がみられる．また運動適性の面でも，サイド・ステップを除いて，体育の好きな者の方がたいぶ優れているようだ．

観点を変えて，身体の形態面と機能面の優れた者とそうでない者とで，体育に対する興味を比較すると表10のようになる．平均点は好き，嫌いの程度に応じて，1から5までの点をあたえて算出したものである．それによると，身体の形態面，機能面の優れた者の方が，そうでない者より，体育に対する興味が高いことがわかる．形態，機能とも優れた者（A群）とそうでない者（B群及

＊秘密書類扱いとして，両親に記入してもらった生徒生活調査表（生徒に封筒に入れて，持ち帰らせ，密封して提出させた）の一項目を整理したもの．

表 9. 身体面の比較（Tスコア） N＝209*

項目		体育の好きな者（138名）		体育の嫌いな者（29名）		全員（209名）		備考（有意差）
		$\bar{x}$	S・D	$\bar{x}$	S・D	$\bar{x}$**	S・D	
形態	身長(cm)	51.04	10.22	48.88	10.00	142.63	7.94	
	体重(kg)	50.25	8.28	50.24	11.33	34.64	6.20	
	胸囲(cm)	50.04	11.45	48.89	12.11	66.57	3.80	
	座高(cm)	52.80	10.44	49.40	12.23	76.34	4.43	t＝1.53 p＞0.05
能力	50 m 走(sec)	53.07	9.88	49.91	9.15	9.30	0.76	
	ボール投(m)	55.65	10.27	45.60	10.45	29.55	6.00	t＝4.75 p＜0.01
	垂直跳(cm)	51.49	9.63	45.36	10.46	33.75	4.84	t＝1.78 p＞0.05
運動適性	片足立(sec)	51.09	11.43	47.16	5.85	25.60	14.14	
	息ごらえ(sec)	50.07	9.97	46.29	10.15	25.36	8.80	
	上体反し(cm)	51.12	9.51	48.19	11.43	38.29	8.54	
	体前屈(cm)	51.01	10.33	47.67	11.22	20.85	6.04	
	サイドステップ(回)	51.54	9.44	50.78	7.81	13.39	2.46	
	腕屈伸(回)	51.45	9.41	50.26	11.56	16.46	8.08	
	上体起し(回)	52.25	10.96	46.81	7.28	26.75	18.19	t＝1.89 p＞0.05

* 全資料利用可能の者のみ選んで整理
** 実測値の平均及び標準偏差を記載

表 10. 身体の形態・機能の優劣と体育の興味

項目	体育が大好き	好き	どちらでもない	嫌い	大嫌い	人数	平均点	標準偏差
A群*	8	7	2	0	0	17	4.35	0.67
B群	8	10	4	6	0	28	3.70	1.10
C群	3	9	9	4	0	25	3.44	0.90

* A群…形態（身長・体重・胸囲・座高），機能（50m走・ボール投・垂直跳・バーピーテスト）ともに平均を上まわる者17名（全体の8.13%）
B群…形態は平均を上まわるが，機能が平均より劣る者28名（全体の13.39%）
C群…形態・機能とも平均より劣る者25名（全体の11.96%）
A群とB群との間に有意差あり（Fテスト 分散に差なし，t＝2.04，p＜0.05）
A群とC群 〃 （ 〃 t＝3.45，p＜0.01）

びC群）との間に統計的にも有意な差がみられた．また好き，嫌い別にその比率を算出すると，A群の約9割が体育が好きで，嫌いな者がいないのに対して，B群・C群では，体育の嫌いな者がかなりおり，C群では体育の好きな者が5割をわっている．

以上の諸結果からして，身体的条件は体育の興味を考える場合，無視しえない条件であることがわかる．

しかし，体育に対する興味は，身体面だけから影響をうけているのではない．体育の好き，嫌いの理由として，性格的なものをあげた者がかなりいたことからわかるように，性格面も無視することは出来ない．そこでつぎに，その面の考察をしたい．

まず最初に，多面的に性格特性を比較できるY—G性格検査[22][23][24]の結果を纒めたのが表11で，その結果をTスコアで比較したのが，図4である．それによると，DからCoまでの6項目は体育の嫌いな者が高く，AgからSまでの6項目は，反対に体育の好きな者が高い．つまり，体育が嫌いな者は，好きな者より，抑うつ性（度々ゆううつになる等の陰気な悲観的な性質）が大で，気分の変化（気が変り易く，感情的で，驚きやすい性質）が大きく，劣等感（自信の欠乏，自己の過少評価）が強い．また神経質（心配性，ノイローゼ気味，いらいらする等の性質）の傾向がみられ，主観的（空想性や過敏性）で，非協調性（不満が多く，人を信用しない）が高いようである．体育の好きな者は，嫌いな者より攻撃性（気が短い，正しいと思うことは人にかまわず実行する，人の意見を聞きたがらない）が強く，活動的（仕事が速い，動作がきびきびしている等の身体的な活動性と活溌な性質）である．また，のんき（人と一緒にはしゃぐ，いつも何か刺激を求める等の，気がるな，のんき

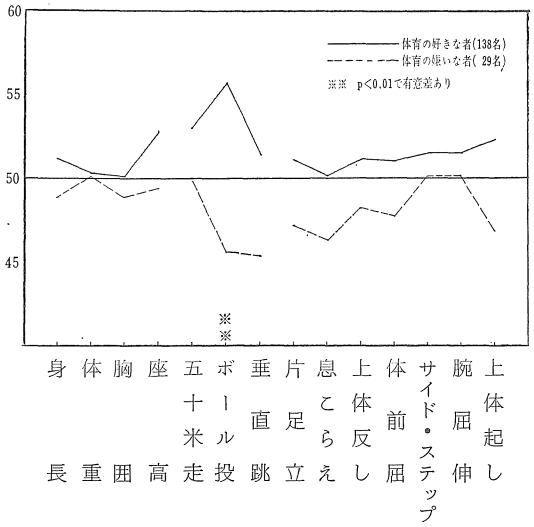


図3　身体面の比較（Tスコア）

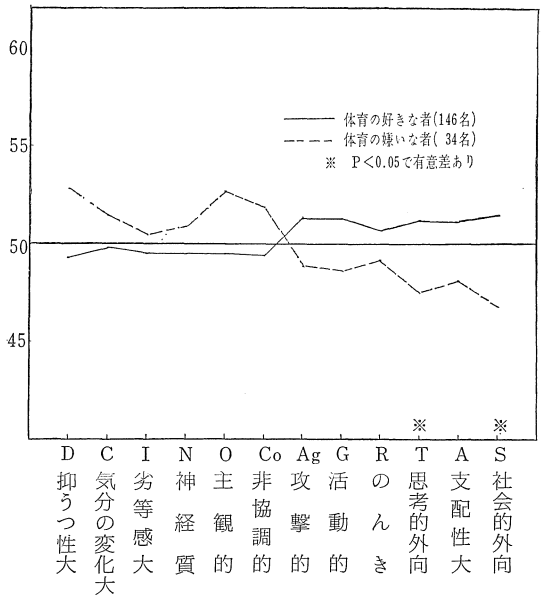


図4　Y—G性格検査の結果の比較（Tスコア）

表 11.　Y—G 性格検査の結果（平均標準点）

性格特性		体育の好きな者(146名)		体育の嫌いな者(34名)		全員 (223名)		備考(有意差)
		$\bar{x}$	S・D	$\bar{x}$	S・D	$\bar{x}$	S・D	
D	抑うつ性大	3.22	0.94	3.56	0.92	3.30	0.94	t=1.90 なし
C	気分の変化大	3.37	1.03	3.53	0.88	3.39	0.98	
I	劣等感大	2.97	0.94	3.06	0.87	3.02	0.96	
N	神経質	3.21	1.08	3.35	0.98	3.26	1.02	
O	主観的	3.43	0.99	3.74	0.92	3.48	0.97	t=1.74 なし
Co	非協調的	3.13	1.03	3.38	1.05	3.19	1.00	
Ag	攻撃的	3.27	0.95	3.03	1.06	3.14	0.99	
G	活動的	2.92	0.95	2.65	0.91	2.79	0.99	
R	のんき	3.18	0.89	3.03	1.01	3.11	0.92	
T	思考的外向	2.94	0.91	2.53	0.92	2.83	0.92	t=2.35 p<0.05
A	支配性大	3.20	0.87	2.94	0.84	3.10	0.87	
S	社会的外向	3.23	0.99	2.79	0.93	3.09	0.98	t=2.39 p<0.05

な，衝動的な性質）で，思考的外向（瞑想的，反省的，自己または他人を分析する傾向の少ないこと）の面がかなり強い．それに支配性（会やグループのために働く，引込み思案でない等の社会的指導性）が強く，社会的外向（人との交際，人と話しをするのを好む，などの社会的接触を好む）の傾向がかなり強い．

D，C，I，Nの4項目を情緒不安定性を表わす項目として纒めると，平均段階が3.19と3.38となって，体育の嫌いな者の方がかなり高い．O，Co，Agの3項目を社会不適応性を表わす項目として纒めると，その平均段階が3.27と3.38となり，体育の嫌いな者の方が高くなっている．AgとGを活動性を表わす項目として纒めると，その平均が3.09と2.84となって，体育の好きな者の方が高い．GとRを衝動性を表わす項目として纒めてその平均を比較すると，3.05と2.84となり，体育の好きな者の方が高い．RとTとを併せて，非内省的な傾向を表わすものとして両者を比較すると，体育が好きな者はその平均が3.06，嫌いな者は2.78となって，かなり大きな

表 12. 向性検査の結果（V・Q）

実数（ ）内は%

品等段階	向性偏差値（V・Q）	体育が大好き（67名）	好き（78名）	どちらでもない（42名）	嫌い（27名）	大嫌い（6名）	計（221名）
非常に内向的	24以下	0	1	1	0	1	3（1.36）
内向的	25～34	4	10	4	4	2	24（10.86）
やや内向的	35～44	15	15	12	8	2	52（23.53）
普通	45～54	28	36	18	11	1	94（42.54）
やや外向的	55～64	15	13	7	3	0	38（17.19）
外向的	65～74	5	3	1	1	0	10（4.52）
非常に外向的	75以上	0	0	0	0	0	0（0.00）
V・Qの平均		49.84	47.26	46.07	45.33	34.50	47.14

表 13. 向性検査の結果（内向・外向別）

%（ ）内は実数

向性	体育が大好き（67名）	好き（78名）	どちらでもない（43名）	嫌い（27名）	大嫌い（6名）	計（221名）
内向的(44以下)	28.36(19)	33.33(26)	39.53(17)	44.44(12)	83.33(5)	35.75(79)
普通(45—54)	41.79(28)	46.15(36)	41.86(18)	40.74(11)	16.67(1)	42.54(94)
外向的(55以上)	29.85(20)	20.52(16)	18.61(8)	14.82(4)	0.00(0)	21.71(48)

差がみられる．AとSの2項目を主導性を表わす項目として纒めると，その平均が3.21と2.87となって，体育の好きな者の方がかなり，リーダーシップに富んでいるようである．以上の結果を綜合すると，体育の好きな者は，嫌いな者より，情緒的に安定しており，社会的適応性が高く，活動的で，衝動性が強く，非内省的で主導性に富む傾向がみられた．なお，TとSの2項目では危険率5%以下の有意差がみられるので，向性の面の相違が大きいようである．

田中向性検査の結果も，はっきりと体育が嫌いな者より，好きな者の方が外向的であることを示している．表12をみると，体育の大好きな者から，大嫌いな者まで，順々に向性偏差値が低くなっている．いま，体育の大好きな者と好きな者，嫌いな者と大嫌いな者を纒めて，それぞれ体育の好きな者と嫌いな者とし，両群を比較すると，48.48と43.36となり，危険率1%以下の有意差がある．また，仮りに向性指数44以下を内向的な者，45から54までを普通，55以上を外向的な者として，それぞれの比率を較べると，表13のようになる．それによると，内向的な者は体育に対する興味が低いほど多く，反対に外向的な者は体育が好きな者ほど多くなっている．

クレペリン精神作業検査の結果は，異常型，疑問型と判定された者が，体育の嫌いな者に多く，特に体育の好きな者に較べて休憩後，動揺と誤謬が増え，休憩効果が少ないことが目立った．また作業量も体育の好きな者の方がいく分勝っている．量的段階が知能に関係があるとすると，知能の面にも差があるかもしれない．

そこで，知能検査（新田中A式とB式）の結果を纒めたのが表14である．それによると，言語式（A式）では，体育の嫌いな者の方がよく，動作式（B式）では，体育の好きな者の成績の方がよい[25]．

しかし，全体的にみて，知能は体育の興味とそれほど深い関係はなさそうである．少くなくとも，運動の上手・下手とか，体力の強弱などの身体面や，向性を主とした性格特性の面ほどの関係はなさそうである．

体育の好きな理由として，友人と仲がよくなるからと答えた者が約20%いた．またY—G性格検査の結果でも，体育の好きな者は嫌いな者より，人との交際を好み，陰気でなく，人と一緒にはしゃぎ，会やグループのために働く者が多い傾向のあることが知られた．

そこで，クラスの中の選択地位（C・S）や排斥地位（R・S）に，両者の間で差がみられるかどうかを調べるため，ソシオメトリック・テスト*の結果を纒めると表15のようになる．それによると，体育の好きな者の方が，選択地位が高く，排斥地位が低くなっている．選択排斥地位を求めると，0.004と−0.001となり，正と負の差がみられた．選択場面を体育場面だけに限ると一層大きな差となる．

なお，孤立生徒の数は，体育が好きな者約7%，体育

* 末尾添付の質問紙により，組の中で好きな者，嫌いな者をそれぞれ3名ずつ書かせ，その理由を付記させた．

表 14.　知　能　検　査　の　結　果

知能偏差値	知能段階	体育の好きな者（147名）		体育の嫌いな者（34名）		全員	
		A式	B式	A式	B式	A式	B式
75以上	最優	1	1	1	1	3	3
65～74	優	29	27	9	4	44	34
55～64	中ノ上	53	59	11	13	83	92
45～54	中	52	51	10	14	74	79
35～44	中ノ下	9	8	3	2	17	15
25～34	劣	2	0	0	0	2	0
24以下	最劣	0	0	0	0	0	0
$\bar{x}$		56.42	56.90	57.15	55.97	56.63	56.41
S・D		9.27	8.48	10.00	8.71	9.38	8.54

表 15.　ソシオメトリック・テストの結果

項目	体育が好きな者（147名）	体育が嫌いな者（34名）	全員（224名）
C・S *	0.012	0.010	0.011
R・S **	0.009	0.011	0.010
C・R・S ***	0.004	−0.001	0.001

* C・S（選択地位）$=\frac{Cr}{(N-1)\,d}$（Crは被選択数，Nはテストをうけた人数，dは許された選択数）

** R・S（排斥地位）$=\frac{Rr}{(N-1)\,d}$（Rrは排斥された数）

*** C・R・S（選択・排斥地位）＝C・S−R・S として算出した．

表 16.　好きな体育の先生（%）

（　）内は実数

調査番号	項目	体育が好きな者（147名）	体育が嫌いな者（34名）	全員（224名）	備考（有意差）
9	指導の熱心な先生	67.35 (99)	61.76 (21)	67.86 (152)	
6	公平・平等な先生	65.31 (96)	70.59 (24)	66.07 (148)	
3	数え方が上手な先生	55.78 (82)	61.76 (21)	55.80 (125)	
5	運動能力のすぐれた先生	57.14 (84)	24.47 (9)	52.68 (118)	$x^2=10.39$ $p<0.01$
1	親切で理解のある先生	47.62 (70)	58.82 (20)	50.89 (114)	
2	明朗活溌な先生	55.78 (82)	32.35 (11)	48.21 (108)	$x^2=9.42$ $p<0.01$
10	学識・教養の深い先生	34.69 (51)	17.65 (6)	31.70 (71)	$x^2=3.71$ なし
4	体格の立派な先生	33.33 (49)	17.65 (6)	28.12 (63)	$x^2=3.21$ なし
8	感情に走らず落ついている先生	27.21 (40)	23.53 (8)	26.34 (59)	
7	厳格な先生	12.93 (19)	5.88 (2)	10.71 (24)	
その他		1.36 (2)	0.00 (0)	0.89 (2)	

の嫌いな者約30%で，両群に危険率1%以下の有意差が認められた．

また，教える先生が好きだからという理由で体育を好む者が約12%いた．その他，先生に関係のある項目が選ばれているので，教える先生の人格や指導法も体育の興味に関係がありそうである[26]．そのため，好きな体育の先生を両群で比較したのが表16である．体育の好きな者は，嫌いな者より，運動能力の優れた，明朗活溌な先生を好む者が多いのに対し，体育の嫌いな者は，公平・平等で，教え方の上手な，親切で理解のある先生を好んでいる．体育の好きな者と嫌いな者とで，好きな体育の先生にかなりの差があるようである．

先生に対する態度がよければ，興味が増すであろうし，悪ければ興味が減退すると思われる．そこで，体育の教

師に対する態度を比較すると表17のようになる．それによると，体育の好きな者の平均得点は6.15，嫌いな者の方は6.59となっている．体育の好きな者の方が低く，好意的な方にずれてはいるが，その差は僅かで，体育の先生に対する態度が，嫌いな者に較べて，それほどよいとは考えられない．いま仮りに，1から10までの項目を尊敬，好意，同情など好意的態度をあらわすプラスの意見群，11から20までの項目を軽蔑，反感，敵視など，非好意的態度をあらわすマイナスの意見群として纒め，その比率を算出すると，好意的意見群の選択率は，体育の好きな者に高く（84.68%と77.84%），非好意的意見を選ぶ者は，体育の嫌いな者に多かった（15.32%と22.16%）．

項目別に体育が好きな者と嫌いな者とを比較すると表18のようになる．それによると，項目12の善人振っている，14の知ったか振りが上手である等，反感をあらわす意見を選ぶ者が，体育の嫌いな者に多く，項目19の利口な人は体育の先生にならないという軽蔑をあらわす意見もめだって嫌いな者が多く選んでいる．反対に，項目8の体育の先生は思いつきがよい，項目3の律義者である等の好意的意見は，体育の好きな者がより多く選んでいる．項目8，12，19の3項目は危険率5%以下で有意差がみられるので，項目によっては，体育の好きな者と嫌いな者とでかなりの差があるようである．しかし，嫌いな者の中にも体育の教師に対する態度がよい者がいるし，好きな者でも態度の悪い者がいる（表17参照）．

教える内容によっても，体育に対する興味が変ってきそうである*．そこでつぎに，体育の授業の中でどのよ

表 17. 体育教師に対する態度（得点別）

得　点	体育が好きな者 (147名)	体育が嫌いな者 (34名)	全　員 (224名)
1 (1.00～1.99)	0	0	0
2	1	1	3
3	11	2	15
4	38	6	51
5	32	4	46
6	22	5	32
7	16	6	28
8	11	7	24
9	12	3	16
10	2	0	5
11	1	0	2
12	1	0	1
13	0	0	0
14 (14.00～14.99)	0	0	1
$\bar{x}$	6.15	6.59	6.34
S・D	1.92	1.90	1.99

表 18. 体育教師に対する態度（項目別）

%（　）内は実数

調査番号	調　査　項　目	体育の好きな者 (147名)	体育の嫌いな者 (34名)	全　員 (224名)	備　考 (有意差)
1	体育の先生若はい人のよき理解者である	64.63 (95)	61.76 (21)	63.39 (142)	
2	勤勉努力家である	49.66 (73)	38.24 (13)	47.32 (106)	
3	律義者である	68.03 (100)	58.82 (20)	66.51 (149)	
4	正義の人である	30.61 (45)	35.29 (12)	29.46 (66)	
5	誰でもができるものではない	59.86 (88)	55.88 (19)	59.82 (134)	
6	童心を失わない人である	73.47 (108)	73.59 (24)	70.09 (157)	
7	ものずきではできない	35.37 (52)	32.35 (11)	38.39 (86)	
8	思いつきがよい	58.50 (86)	35.29 (12)	51.79 (116)	$x^2=4.01$ $p<0.05$
9	貧乏である	2.04 (3)	2.94 (1)	2.23 (5)	
10	ちょっとした職業である	27.89 (41)	32.35 (11)	29.46 (66)	
11	馬鹿正直である	5.44 (8)	8.82 (3)	8.04 (18)	
12	善人振っている	12.24 (18)	26.47 (9)	15.18 (34)	$x^2=4.40$ $p<0.05$
13	封建的である	17.69 (26)	8.82 (3)	15.18 (34)	
14	知ったか振りが上手である	14.97 (22)	26.47 (9)	16.96 (38)	$x^2=2.54$　なし
15	変人である	12.24 (18)	17.65 (6)	14.29 (32)	
16	陰けんである	5.44 (8)	5.88 (2)	5.36 (12)	
17	老人のする仕事である	0.00 (0)	0.00 (0)	0.89 (2)	
18	鬼のような人である	10.88 (16)	11.76 (4)	11.60 (26)	
19	利口な人間はならない	4.08 (6)	14.71 (5)	7.59 (17)	$x^2=5.47$ $p<0.05$
20	われわれの敵である	2.04 (3)	0.00 (0)	1.79 (4)	

* 興味は環境の中から個人に価値あるものをもとめようとする内面の力であるから，それは主体の内面の情勢と対象の性質とによってきまってくる．しかし事物に固有の特性ではなく，また主体に一定している性質でもない[27]．

表 19.　授業中最も興味のあるのは何か

%（　）は実数

項目	体育が大好きな者（68名）	好きな者（79名）	どちらでもない者（43名）	嫌いな者（28名）	大嫌いな者（6名）	計（224名）
スポーツ	73.53 (50)	81.01 (64)	58.14 (25)	39.29 (11)	33.33 (2)	67.86(152)
功技（鉄棒やとび箱）	26.47 (18)	11.39 (9)	32.56 (14)	21.43 (6)	16.67 (1)	21.43 (48)
保健衛生	0.00 (0)	1.27 (1)	2.33 (1)	35.71 (10)	50.00 (3)	6.70 (15)
徒手体操	0.00 (0)	5.06 (4)	6.98 (3)	3.57 (1)	0.00 (0)	3.57 (8)
ダンス（フォークダンスなど）	0.00 (0)	1.27 (1)	0.00 (0)	0.00 (0)	0.00 (0)	0.45 (1)

表 20.　スポーツに対する興味

%（　）内は実数

スポーツ＼体育	大好き	好き	どちらでもない	嫌い	大嫌い	計
大好き	27.23 (61)	9.37 (21)	2.23 (5)	0.45 (1)	0.45 (1)	39.73 (89)
好き	2.68 (6)	24.55 (55)	3.57 (8)	2.68 (6)	0.45 (1)	33.93 (76)
どちらでもない	0.45 (1)	0.89 (2)	13.39 (30)	3.57 (8)	0.00 (0)	18.30 (41)
嫌い	0.00 (0)	0.45 (1)	0.00 (0)	5.80 (13)	0.45 (1)	6.70 (15)
大嫌い	0.00 (0)	0.00 (0)	0.00 (0)	0.00 (0)	1.34 (3)	1.34 (3)
計	30.36 (68)	35.27 (79)	19.20 (43)	12.50 (28)	2.68 (6)	100.00(224)

うな面に一番興味をもっているかを調べた．そのため体育の内容を，一応，体操，巧技，スポーツ，ダンス，保健衛生の5つに分けて，好むものを一つだけを選ばせた結果を纏めたのが表19である．

それによると，巧技，徒手体操，ダンスにおいては差は殆んどないが，体育の好きな者は，スポーツを選んだ者が圧倒的に多く8割（77.55%）に近い．反対に保健衛生を選ぶ者は，体育の好きな者に殆んどいないのに，嫌いな者ではスポーツと同じく約4割（38.23%）の者が選んでいる．

そこで，体育の好き・嫌いとスポーツの好き・嫌いとの関係を考察するために纏めたのが表20である．それによると，体育の好きな者にスポーツを嫌う者が一名いるが，体育の嫌いな者でもスポーツはかなり好きなようである．体育の嫌いな者34名のうち9名（約26%）はスポーツを好むと答えている．全体でスポーツを嫌う者は8%で1割に満たない．しかし，体育の嫌いな者の半分（17名）はスポーツもやはり嫌いである．

体育の好きな者は，嫌いな者より，スポーツに関する記事をより多く読んでおり，ラジオやテレビで実況放送に接する機会も多く，直接競技場へ出かけてスポーツを見物することも多い．読んだり，見たりするスポーツの種目も多いようである．また，小学校時代により多くの種目を経験している．好きなスポーツ，今後やってみたいスポーツもいろいろの種目を選んでいるし，所有しているスポーツ用具も多いようである（資料省略）．

そこでつぎに，体育の好きな者と嫌いな者との間に，スポーツに対する態度に差があるかどうかを調べてみた．その結果が表21と22である．表21によると，得点の平均は7.01と7.24で差は殆んどなく，表22により，仮りに1から10までを好意的，11から20までを非好意的な意見群として纏めて，その選択率を比較しても，両群に殆んど差がない．各項目の選択率においても，これといった大きな差はみられなかった．

表 21.　スポーツに対する態度（得点別）

得点	体育が好きな者（147名）	体育が嫌いな者（34名）	全員（224名）
1 (1.00～1.99)	0	0	1
2	2	0	2
3	3	0	3
4	12	1	15
5	24	11	41
6	31	8	44
7	33	6	46
8	25	3	42
9	13	0	19
10	3	2	7
11	0	1	1
12	1	1	2
13 (13.00～13.99)	0	1	1
$\bar{x}$	7.01	7.24	7.15
S・D	1.70	2.14	1.79

表 22. スポーツに対する態度（項目別）

%（ ）内は実数

調査番号	調査項目	体育の好きな者 (147名)	体育の嫌いな者 (34名)	全員 (224名)	備考 (有意差)
1	スポーツは公正な人格を養成する	78.91 (116)	70.59 (24)	76.79 (172)	
2	共同精神を啓発する	76.87 (113)	61.76 (21)	71.43 (160)	$x^2=2.28$ なし
3	意志を鞏固にする	38.10 (56)	35.29 (12)	37.05 (83)	
4	青年を純真にする	63.95 (94)	58.82 (20)	62.95 (141)	
5	感覚を鋭敏にする	36.05 (53)	35.29 (12)	33.93 (76)	
6	動作を敏活にする	80.95 (119)	70.59 (24)	79.46 (178)	
7	やる間は夢中で一切の邪悪がなくなる	57.14 (84)	47.06 (16)	52.68 (118)	
8	男性的だからよい	38.10 (56)	29.41 (10)	33.93 (76)	
9	人を感激せしめる	39.46 (58)	38.24 (13)	37.95 (85)	
10	都会人に必要である	37.41 (55)	26.47 (9)	37.95 (85)	$x^2=1.45$ なし
11	英雄主義を助成発達させる	36.05 (53)	26.47 (9)	33.48 (75)	
12	人を単純にする	25.85 (38)	35.29 (12)	26.79 (60)	
13	趣味とするには多大な熟練と時日がいる	44.22 (65)	32.35 (11)	46.43 (104)	$x^2=1.60$ なし
14	金がかかる	9.52 (14)	17.65 (6)	11.16 (25)	
15	選手を束縛する	23.81 (35)	20.59 (7)	23.21 (52)	
16	新聞社の金儲けか広告の手段となる	7.48 (11)	11.76 (4)	8.04 (18)	
17	自然な運動というより不自然な運動を強いる	14.29 (21)	2.94 (1)	13.39 (30)	
18	無鉄砲な人間を作る	3.40 (5)	0.00 (0)	2.68 (6)	
19	健全な心身の発達を妨げる	19.05 (28)	8.82 (3)	18.30 (41)	
20	人を不具者にする	0.68 (1)	8.82 (3)	2.23 (5)	

表 23. 両親の興味の比較（5段階評定の平均）

（ ）内はS・D

項目	体育の好きな者		体育の嫌いな者		全員		備考 (有意差)
	父 (121名)	母* (111名)	父 (26名)	母 (26名)	父 (182名)	母 (169名)	
学生時代の体育に対する興味	4.01 (0.89)	3.73 (0.84)	3.58 (1.00)	3.50 (0.84)	3.88 (1.02)	3.65 (0.82)	父親間に有意差あり $t=2.17$ $p<0.05$
現在のスポーツに対する興味	4.01 (0.71)	3.68 (0.72)	3.96 (0.85)	3.60 (0.82)	3.97 (0.75)	3.63 (0.74)	

* 母親の回答の回収率の方が父親より悪かった.

表 24. 両親のスポーツ記事・放送に接する機会の比較（%）

（ ）内は実数

項目		体育の好きな者		体育の嫌いな者		全員	
		父 (121名)	母 (111名)	父 (26名)	母 (26名)	父 (182名)	母 (169名)
新聞のスポーツ記事やラジオ・テレビの実況を見る(聞く)	きまって	43.80 (53)	15.84 (16)	38.46 (10)	15.38 (4)	42.31 (77)	13.01 (22)
	時々	54.55 (66)	85.15 (86)	53.85 (14)	65.38 (17)	54.95 (100)	76.33 (129)
	見(聞か)ない	1.65 (2)	8.91 (9)	7.70 (2)	19.23 (5)	2.75 (5)	10.66 (18)
スポーツ新聞やスポーツ週間紙を見る	きまって	32.23 (39)	8.91 (9)	38.46 (10)	11.54 (3)	33.00 (60)	8.28 (14)
	時々	57.85 (70)	79.21 (80)	38.46 (10)	61.54 (16)	52.75 (96)	67.46 (114)
	見ない	9.92 (12)	21.78 (22)	23.08 (6)	26.92 (7)	14.29 (26)	24.26 (41)

表 25. 両　親　の　比　較　(%)

(　) 内は実数

項目		体育の好きな者		体育の嫌いな者		全員	
		父 (121名)	母 (111名)	父 (26名)	母 (26名)	父 (182名)	母 (169名)
息子をスポーツ選手にさせたいと思う	是が非でも	1.65 (2)	0.00 (0)	0.00 (0)	0.00 (0)	1.10 (2)	0.00 (0)
	能力があれば	70.25 (85)	72.28 (73)	50.00 (13)	46.15 (12)	67.03(122)	61.54(104)
	能力があってもさせたくない	8.27 (10)	8.91 (9)	7.70 (2)	15.38 (4)	7.69 (14)	9.47 (16)
	能力がないので思わない	19.83 (24)	28.71 (29)	42.31 (11)	38.46 (10)	24.18 (44)	28.57 (49)

興味を考える場合，家庭環境などの環境的要因も無視しえないので，親の興味との関係を調べてみた*.

はじめに，両親の学生時代の体育に対する興味を両群で比較すると，表23のように，父・母ともに，体育の好きな者の親の方が興味が高い．特に父親間には有意差 ($p<0.05$) があるので，親子の興味の間に何らかの関係がありそうである．しかし，現在のスポーツに対する興味には，殆んど差がみられなかった．とはいえ，スポーツに関係のある記事や放送に接することのない者の比率は，体育の嫌いな者の親の方に多いようだし（表24参照)，息子をスポーツ選手にすることに対しても，体育の嫌いな者の親の方が消極的で（表25参照）その家庭環境にかなりの差がありそうである**.

4　今後の問題

以上のように，体育の興味は，主体的条件や環境的要因と深い関係がみられる．しかし，興味を規定する条件には，個人差が大きいと思われるので[29][30]，今後事例研究によって，一人一人の生徒について，好き嫌いの原因をこまかに調べ，その条件をつきとめていきたいと思っている．また，縦断面的に同一対象を逐年的に追跡して年令による変化もみていきたい．その場合，相関係数によって，体育の興味を規定している条件を明らかにしていく予定である．

（付記）この研究をすすめるにあたり，後藤学長をはじめ，諸先生方のご協力をいただいた．ここに厚くお礼申しあげる．

* 6月下旬に末尾添付の質問紙を封筒に入れて持って帰らせ，両親に記入してもらって，密封して提出させた．

** なお，親と子の体育やスポーツに対する興味を比較すると，体育の好きな息子はその両親より興味が高く，体育の嫌いな息子は，その両親より興味が低くなっている．両群の親の間に，体育教師に対する態度とスポーツに対する態度に相違がみられなかった．[28]

参　考　文　献

(1) 田中熊次郎「興味の発達」児童心理学ハンドブック，313頁，金子書房，昭34 (1959)

(2) 波多野完治，児童の興味と適性検査，巌松堂，昭23 (1948)

(3) 正木正，続有恒共編，教育心理学実習調査研究，107頁，同学社，昭31 (1956)

(4) 田中教育研究所人格検査研究部，田研式学習興味診断テスト手引，3頁，日本文化科学社

(5) 肥田野直「興味」心理学事典，139頁，平凡社，昭32 (1957)

(6) 中野佐三「興味」教育心理学事典，136頁，金子書房，昭31 (1956)

(7) 園原太郎「興味とは何か」児童心理，11の6，昭32 (1957)

(8) Thorndike, R.L. and Hagen, E. Measurement and Evaluation in Psychology and Education, pp. 381-382, John Wiley & Sons, 1960.

(9) 黒橋条一「興味・意欲」学習の診断と治療，97—118頁，中山書房，昭32 (1957)

(10) Good, C.V.「interest」Dictionary of Education, p.223. McGraw Hill, 1945.

(11) 柴山茂夫ほか，青年期男子に於ける心身発達の縦断面的研究——知能，性格，興味，態度等の発達について——，体育学研究，6の1，昭36 (1961)

(12) 柴山茂夫ほか，青年期男子に於ける身心発達の縦断面的研究——心理的な面の発達について——，体育学研究，9の1，昭39 (1964)

(13) Meyer, G.R. and Penfold, D.M.E. Factors associated with Interest in Science, British Journal of Educational Psychology. Vol. 31, pp. 33-37, 1961.

(14) 中野佐三「教科・科目の好き嫌いについての調査」

児童心理，10の1，昭31（1956）

(15) Cronbach, L.J. Essentials of Psychological Testing. 2nd ed. pp. 405-439, Harper & Row, 1964.

(16) Mursell, J.L. Psychological Testing. pp.253-260, Longmans, 1947.

(17) 児玉省，児玉ストロング職業興味検査法，2—8頁，日本文化科学社，昭38（1963）

(18) 古賀行義，競技に対する態度の測定，心理学研究，5，昭9（1934）

(19) 続有恒，質問紙調査法，66頁，同学社，昭29(1954)

(20) 相川高雄，教科の好き・嫌いと教師の影響，児童心理，12の11，61頁，昭33（1958）

(21) 中野佐三，体育学習の不振の原因について，各科教育法の教育心理学的研究（体育科），教育心理学研究，7の4，42—48頁，昭35（1960）

(22) 野口義之他，運動選手の性格特性についての研究，体育学研究，2の5，227—233頁，昭32（1957）

(23) 百田丈二，体育と性格との心理学研究（その一），体育学研究，2の7，70頁，昭32（1957）

(24) 花田敬一，運動選手の性格についての一考察（第一報），体育学研究，2の7，127頁，昭32（1957）

(25) Gundersen, R.O. and Feldt, L.S. The Relationship of Differences between Verval and Nonverval Intelligence Scores to Achievement. J. of Educational Psychology, Vol. 51, pp. 115-121, 1960.

(26) 竹中玉一他，理想的体育教師についてⅢ，体育学研究，3の1，118頁，昭33（1958）

(27) 阪本一郎，「興味とその発達」児童と行動の発達下巻，61—77頁，金子書房，昭23（1948）

(28) Campbell, R·E. and Horrocks, J.E. A note on Relationships between Student and Parent Minesota Teacher Attitude Inventory Scores. J. of Edu. Psy. Vol. 52, pp. 199-200, 1961.

(29) 佐藤正，教科不適応の診断についての研究——体育科における問題行動とその原因について——教育心理学研究，4の1，28—32頁，昭31(1956)

(30) 石黒彰二，中学生の学習興味——縦断面研究——，教育心理学研究，9の3，132—170頁，昭36（1961）

体育に対する興味の調査

1. 下にあなたの学校で習う6つの学科がならべてあります．〔　〕の中にあなたの好きな順に1番から6番まで番号をつけて下さい．

国　語〔　〕　社　会〔　〕　数　学〔　〕　理　科〔　〕　英　語〔　〕　体　育〔　〕

2. 下に書いてある学科のうちで，あなたの好きな学科に○をつけ，嫌いな学科には×をつけて下さい．もし好きでも嫌いでもない学科があったら△をつけて下さい．

国　語〔　〕　社　会〔　〕　数　学〔　〕　理　科〔　〕　英　語〔　〕　体　育〔　〕

3. あなたは体育が好きですか，嫌いですか．適当なものに○をつけて下さい．

大好き〔　〕　好き〔　〕　どちらでもない〔　〕　嫌い〔　〕　大嫌い〔　〕

4. 体育の好きな人は好きなわけを，嫌いな人は嫌いなわけを次の中から選んで○をつけて下さい．まだ他にあればその他〔　〕の所に書いて下さい．

体育が好きな理由

1. 先生にほめられるから
2. よくできるから，じようずだから
3. おもしろいから
4. たのしいから
5. ためになるから
6. 教える先生が好きだから
7. なんとなく好き
8. おとなになって必要だから．おとなになってから大切だから．社会に出て役に立つから
9. 自分の性質にあっているから
10. からだが丈夫になるから
11. 性質がほがらかになるから
12. 友人と仲がよくなるから

その他
〔　　〕

体育が嫌いな理由

1. 先生にしかられるから
2. へただから，よくできないから
3. おもしろくないから
4. たのしくないから
5. ためにならないから
6. 教える先生が嫌いだから
7. なんとなく嫌い
8. おとなになって必要でないから，おとなになっても〔社会に出ても〕役に立たないから
9. 自分の性質にあわないから
10. からだが弱いから，つかれるから

その他
〔　　〕

5. 体育の授業で一番興味があるのは何ですか．○をつけて下さい．

徒手体操〔　〕　器械運動（鉄棒やとび箱）〔　〕　スポーツ〔　〕　ダンス（フォークダンスなど）〔　〕
保健衛生〔　〕　その他〔　　〕

6. あなたが好きな体育の先生はどんな人ですか．○をつけて下さい．他にあれば〔　〕の中に書いて下さい．

1. 親切で理解のある先生
2. 明朗活溌な先生
3. 教え方が上手な先生
4. 体格の立派な先生
5. 運動能力のすぐれた先生
6. 公平・平等な先生
7. 厳格な先生
8. 感情に走らず落ちついている先生
9. 指導の熱心な先生
10. 学識・教養の深い先生

その他
〔　　〕

自己の身体・運動能についての悩みの調査

あなたがふだん気に病んでいることがあれば，その番号を○でかこんで下さい．
〔これは試験ではありませんので，正直にありのまま答えて下さい．みせあってはいけまん．〕

1. 背が低すぎる
2. 背が高すぎる
3. 肥りすぎている
4. やせている
5. 身体に人並でないところがある
6. 色が黒すぎる
7. 色が白すぎる
8. きりようがわるい
9. 姿勢がわるい
10. 体力がない
11. よく頭痛がよる
12. あまり眠れない
13. よく病気をする
14. 食物に好き嫌いが多い
15. 疲れやすい
16. 耳が遠い
17. ひどい近視である
18. どもることがある
19. 運動がまずい
20. にきびがある

交 友 関 係 の 調 査

あなたはこの組の人で誰が一番好きですか．二番目に好きなのは誰ですか．三番目に好きなのは誰ですか．下にその名前と理由を書いて下さい．
〔研究の資料にするのですから真面目に正直に書いて下さい．みせあってはいけません〕

1番好きな人……〔　　〕わけ（　　）
2番目に好きな人……〔　　〕わけ（　　）
3番目に好きな人……〔　　〕わけ（　　）

次にあなたの嫌いな人を3人選んでその名前と理由を書いて下さい．

1番嫌いな人……〔　　〕わけ（　　）
2番目に嫌いな人……〔　　〕わけ（　　）
3番目に嫌いな人……〔　　〕わけ（　　）

次に体育の時間にあなたは誰と一緒のグループになりたいですか．3人選んでその理由を書いて下さい．

1番なりたい人……〔　　〕わけ（　　）
2番目になりたい人…〔　　〕わけ（　　）
3番目になりたい人…〔　　〕わけ（　　）

スポーツに対する態度の調査

日頃あなたが，スポーツに対していだいている感じや意見について答えて下さい．下に1から20までのスポーツに対するいろいろな感じや意見が述べてあります．これをよく読んで，あなたの感じや意見によく合っていると思うものに○印をつけて下さい．いくつ選んでもよろしい．

1. スポーツは公正な人格を養成する．
2. スポーツは共同精神を啓発する．
3. スポーツは意志を鞏固にする．
4. スポーツは青年を純真にする．
5. スポーツは感覚を鋭敏にする．
6. スポーツは動作を敏活にする．
7. スポーツをやる間は夢中で一切の邪悪がなくなる．
8. スポーツは男性的だからよい．
9. スポーツは人を感激せしめる．
10. スポーツは都会人に必要である．
11. スポーツは英雄主義を助成発達させる．
12. スポーツは人を単純にする．
13. スポーツを趣味とするには多大な熟練と時日がいる．
14. スポーツをやるには金がかかる．
15. スポーツは選手を束縛する．
16. スポーツは新聞社の金儲けか広告の手段となる．
17. スポーツは自然な運動というより不自然な運動を強いる．
18. スポーツは無鉄砲な人間を作る．
19. スポーツは健全な心身の発達を妨げる．
20. スポーツは人を不具者にする．

体育の教師に対する態度の調査

あなたは日頃体育の先生たちについて，たとえば〝体育の先生は親切な人だ〟とか〝体育の先生はおそろしい人だ〟とかいう感じや意見をもっているでしょう．いま下に1から20まで体育の先生についての20の感じや意見が述べてあります．それを読んで，あなたの感じや意見にもっともよく合っているものに○をつけて下さい，いくつでもかまいません．

1. 体育の先生は若い人のよき理解者である．
2. 体育の先生は勤勉努力家である．
3. 体育の先生は律義者である．
4. 体育の先生は正義の人である．
5. 体育の先生は誰でもができるものではない．
6. 体育の先生は童心を失わない人である．
7. 体育の先生はものずきではできない．
8. 体育の先生は思いつきがよい．
9. 体育の先生は貧乏である．
10. 体育の先生はちょっとした職業である．
11. 体育の先生は馬鹿正直である．
12. 体育の先生は善人振っている．
13. 体育の先生は封建的である．
14. 体育の先生は知ったか振りが上手である．
15. 体育の先生は変人である．
16. 体育の先生は陰けんである．
17. 体育の先生は老人のする仕事である．
18. 体育の先生は鬼のような人である．
19. 利口な人間は体育の先生にはならない．
20. 体育の先生はわれわれの敵である．

両　親　用　質　問　紙

この調査は研究の資料にするものですから，御協力をお願いします．全体的傾向を，とらえるのが目的ですから，名前はお書きになるには，およびません．こゝに2部同じ内容のものがありますが，お父さんとお母さんとは，お互に相談されることなく，又お子さんとも相談しないで各自別々に1部ずつお答え下さい．勿論学校の成績とは関係がありませんので，思うまゝを卒直にお答え下さい．御多忙中まことに恐しゅくですが，ぜひ研究に御協力下さいますようお願い申し上げます．

生徒との関係	父母	年令	満　才	学歴	尋小卒・高小卒・中高等女卒・高専卒・大学卒	職業	

① あなたは学生時代に体育が好きでしたか，嫌いでしたか．（適当なものに○をつけて下さい）
　大好きだった〔　〕　好きだった〔　〕　どちらでもなかった〔　〕　嫌いだった〔　〕　大嫌いだった〔　〕

② 現在あなたはスポーツが好きですか，嫌いですか．（適当なものに○をつけて下さい）
　大好き〔　〕　好き〔　〕　どちらでもない〔　〕　嫌い〔　〕　大嫌い〔　〕

③ どんな種目のスポーツが好きですか．（嫌いな人はその理由を書いて下さい）
　好きなスポーツの名〔　　〕
　嫌いな理由〔　　〕

④ スポーツ新聞やスポーツの週刊誌を読まれますか．
　きまって読んでいる〔　〕　時々読む〔　〕　読まない〔　〕

⑤ 新聞のスポーツ記事を見たり，テレビやラジオの実況放送を見ら（聞か）れますか．
　きまって見る（聞く）〔　〕　時々見る（聞く）〔　〕　見（聞か）ない〔　〕

⑥ お子さんをスポーツの選手にさせたいと思われますか．
　是が非でもさせたい〔　〕　能力があればさせたい〔　〕　能力があってもさせたくない〔　〕
　能力がないのでさせようとは思わない〔　〕

⑦ 体育の先生には，どんな人がいいと思われますか．具体的に書いて下さい．
　以下省略

スポーツに対する興味の調査

1. あなたはスポーツが好きですか嫌いですか．適当なものに○につけて下さい．
大好き〔 〕 好き〔 〕 どちらでもない〔 〕 嫌い〔 〕 大嫌い〔 〕
2. あなたはスポーツをみることと，やることと，どちらが好きですか．（どちらも嫌いな人は書かなくてもよい）○をつけて下さい．
どちらも同じぐらい好き〔 〕 みることの方が好き〔 〕 やることの方が好き〔 〕
3. あなたはスポーツ選手になりたいと思いますか，それはどうしてですか，○をつけなさい．他に理由があれば〔 〕の中に書いて下さい．

思う理由

1. 性質がほがらかになるから
2. からだが丈夫になるから
3. 気のあった友人と一緒に過せれるから
4. 余暇を楽しくすごせるから
5. 両親を喜ばせることができるから
6. 母校の名誉に貢献できるから
7. 就職が有利になるから
その他〔 〕

思わない理由

1. からだが弱いから
2. 動作が粗雑になるから
3. つかれて勉強ができないから
4. 練習する時間がないから
5. 経済条件が許さないから
6. その他〔 〕

4. あなたは新聞のスポーツらんを読みますか．○をつけなさい．
よまない〔 〕 時々よむ〔 〕 毎日読む〔 〕
5. どんな種目のスポーツの記事を読みますか．（よまない人は理由を書いて下さい）○をつけなさい．
1. 野球 2. すもう 3. 水泳 4. 陸上競技 5. ラグビー 6. バレーボール 7. 柔道
8. その他〔 〕 よまない人は理由〔 〕
6. スポーツ新聞（中日スポーツなど）を読んでいますか．○をつけなさい．
とっていない〔 〕 とっていてもよまない〔 〕 時々読む〔 〕 毎日よんでいる〔 〕
7. スポーツの週刊誌を読んでいますか．○をつけなさい．
とっていない〔 〕 とっていても，よまない〔 〕 時々読む〔 〕 きまって読んでいる〔 〕
8. ラジオのスポーツ・ニュースや実況放送を聞きますか．○をつけなさい．
ラジオがない〔 〕 故障〔 〕 あっても聞かない〔 〕 時々きく〔 〕 きまって聞く〔 〕
9. どんなスポーツの放送をききますか．
〔 〕
10. テレビのスポーツ・ニュースや実況放送を見ますか．○をつけなさい．
テレビがない〔 〕 家にはないが他へみにいく〔 〕 あっても見ない〔 〕
時々見る〔 〕 きまってみる〔 〕
11. どんなスポーツの放送をみますか．
〔 〕
12. 体育館やグランドや競技場（球場やプールなど）へ出かけて，スポーツを見物したことがありますか．○をつけなさい．
一度もいったことがない〔 〕 ほとんどない〔 〕 たまにいく〔 〕 よくいく〔 〕
13. あなたはどんなスポーツの用具を持っていますか．○をつけなさい．
1. スパイク 2. 柔道着 3. しない 4. 水泳着 5. スキー道具 6. スケートぐつ
7. テニスのラケット 8. 卓球のラケット 9. バトミントのラケット 10. ソフトボール
11. バット 12. 軟式野球のボール 13. ミット 14. グラブ
15. その他〔 〕
14. 小学校時代にやったことのあるスポーツに○をつけて下さい．他にあれば〔 〕に書いて下さい．
1. 体操 2. 陸上競技 3. 柔道 4. 剣道 5. すもう 6. バレーボール 7. バスケットボール
8. ハンドボール 9. サッカー 10. ラグビー 11. スケート 12. テニス 13. 卓球
14. バトミントン 15. ソフトボール
16. その他〔 〕
15. あなたの好きなスポーツを書いて下さい．いくつでもよろしい．

16. 今後やってみたいスポーツを書いて下さい．